

令和2年度 中国地方整備局
コンプライアンス・アドバイザー委員会議事概要

1. 開催日時 令和3年3月2日(火) 15:30～16:50

2. 開催場所 中国地方整備局 建政部 3階会議室

3. 委員 委員長 大本 和 則 弁護士
委員 磯村 定 夫 (一社)中国地域ニュービジネス協議会参与
委員 花野井 道 郎 時事通信社広島支社長
委員 平野 実 県立広島大学教授
委員 山田 希 恵 公認会計士

4. 議 事

令和3年度中国地方整備局コンプライアンス推進計画(案)について

5. 委員からの主な質問・整備局からの回答

質問① コンプライアンス出前講座については、集合形式の良いところは入れつつ、webもうまく併せながら効率よく進めることが必要と思われる。出前講座の実施状況を確認したい。

回答① 今年度は伝えたいことを集中して聴いてもらえるよう出向き集合形式で実施した。また現地での執務環境の確認や推進責任者である所長等の意見を聞くことも重要であると考えている。なお、今年度はコロナ禍で密を避けるため、会場を2箇所に分け、対面とWebによる同時視聴や遠方の出先機関等への同時配信も行っている。来年度も工夫しながら行いたいと考えている。

質問② 一般監査において「情報管理整理役職表」の徹底が図られていないと報告されているが、ほんの小さなところからエラーが出てはいけないので、内部監査や推進計画の取組の中で目配りしていただきたい。水平展開が大事ではないか。

回答② 監査での指導等を受け、適切な情報管理に向けて来年度のコンプライアンス推進計画の本部長指示に具体的に指示することとしている。

質問③ SNSは、コンプライアンス上の問題があることに気付かずにやってしまうケースがあるが、SNSへの取組メニューを設ける計画はあるか。

回答③ SNSの関係については、コンプライアンス出前講座における公務員倫理・サービスの資料の中で実際に発生した事例を用いて説明している。今後も服務規律の保持の観点から引き続き事例等紹介しながら取り組んでいきたい。

質問④ コンプライアンス出前講座のアンケートにおいて、好評、不評の意見が出されているが、取組の効果について分析しているか。

回答④ 出前講座の後に、全職員に対して取組項目単位でのアンケートを行っているが、詳細には把握できていない。来年度は、職員の意見を汲み取れるようアンケートの質問内容を工夫して実施する予定であり、今後の取組に活かせるようにしたい。

質問⑤ コンプライアンス出前講座のアンケートにおいて、コンプライアンス関係通報窓口を知らないという意見が出されているが、繰り返し周知徹底する必要があるのではないか。

回答⑤ ポップアップや研修、出前講座でも通報窓口の周知をしている。繰り返し周知徹底を図っていきたい。

質問⑥ パワーハラスメントについては、民間よりも厳しいものが人事院規則で定められている。また、地方自治体は取組が進んでいないようだが、整備局が取り組みを進めていくことが重要ではないか。

回答⑥ パワハラに関する規程等の周知、相談員の配置や研修においてパワハラの講座を設けるなど取組を行っている。また、今年度の出前講座においては重点のテーマとして全職員に対して周知したところである。今後も継続して取り組んでいきたい。

質問⑦ コンプライアンス推進計画について、マンネリ化防止のため内容がどんどん膨らみ、今後も文章が盛りだくさんになることが予想されるが、どのように考えているか。

回答⑦ 推進計画本体は膨らんではいないが、本部長指示については、分かりにくかった部分をより分かりやすい表現として追記したためと思われる。来年度はアンケート調査を行うこととしており、その結果を踏まえ反映させたい。

質問⑧ リモートハラスメントは、セクハラ的発言とか、業務遂行に必要な範囲を超え頻繁に報告させるなど、やり過ぎるとパワハラになる可能性がある。管理者として気を付けなければならないが、今後、個別取組のコンテンツに入れる計画はあるか。

回答⑧ 今後リモートワークを推進していくうえでは起こりうる問題であり、来年度の研修資料等に盛り込むこととしている。

6. 委員からの主な意見

・各取組における効果を高めるため、また、マンネリ化を防ぐためにはアンケート調査は有効である。アンケートの結果から新たな発見があったり、少数意見にヒントが隠されているので、質問の内容を工夫し回答結果を今後の取り組みに反映させること。

・不祥事事例（SNS対応など）やポップアップ、eラーニングで職員に対して情報を発信する際には、職員が理解し易いよう、分かりやすい表現とし、マンネリ化の防止や職員がより興味を持てるよう工夫をすること。